

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生卒業前アンケートにおける「進路指導による自己の変容」に関する肯定的回答の向上 ・授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができたと感じている」の肯定的回答の向上 ・学校教育自己診断（生徒）における「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答の向上 ・学校敷地内の里山である「裏山」の活用状況（授業・行事・地域連携・ボランティア活動として有効に活用）の向上
計画名	「刀根山・里山活用プロジェクト～人を育てる拠点として～」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の授業力の強化と「確かな学力」の育成 (3) 生徒の自習力や学習意欲の向上及び整備された教育環境の積極的活用により興味・関心を持たせる。 2. 生徒が希望する進路の実現のため、学習指導と進路指導の充実 (1) 3年間を見通した進路指導計画によりキャリア教育を充実させ、大学進学等の目標の実現及び、さらに高い目標の設定とその実現をめざす。 4. 地域に開かれた学校づくり (2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。
事業目標	<p>本校生徒は学力面の上位層の大部分がクラブ活動に励み、地域との連携活動やボランティア活動にもよく取り組んでおり、9割程度の生徒は大学進学するものの、将来に対する高い志を抱くことなく、自立的な進路選択や将来計画が希薄なまま進学している者も少なくない状況である。</p> <p>社会人として自立した人を育てるキャリア教育の観点から、これまで「地域連携の拠点」としてきた敷地内にある「裏山」を活用し、観察や実習、里山体験、地域や大学との連携を通して、生徒の自尊感情やモチベーションを高めることで学習への意欲や興味・関心を向上させるとともに、「生きる」意味や「学ぶ」意味を考えさせ、「希望する進路の実現のための拠点」へとシフトしていく。また同時に、災害時のボランティア支援基地として防災教育の推進にも活用する。</p> <p>数値目標としては、3年生卒業前アンケート、授業アンケート、学校教育自己診断、裏山等の活用状況の各指標を向上させていく。</p>
整備した 設備・物品	<p>剪定用ハサミ（20本） 鞆付き剪定鋸（20本） 立刈り鎌（5本） 替刃式草刈鎌（15本） 羽釜（5台） かまど（5台） 寸胴鍋（6台） ステンレス製メッシュラック（2台） エリア案内板（2台） ビオトープ解説板（1枚） 樹名札（180枚） 樹脂ポール800mm（10本） 樹脂ポール400mm（10本） V型脚300mm（10本） SUSスプリング200mm（60本） 校内植生マップ作成（8000部） 裏山への入り口スロープの改修</p>
取組みの 主担・実施者	<p>主担：「刀根山・里山活用プロジェクトチーム」 取組みの実施者：管理職・首席・関係教科担当者・生物エコ部など関係クラブ顧問・生徒会顧問・有志 → 最終的には全教職員で実施することをめざす</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・校内プロジェクト委員会を年間6回開催し、情報の共有、取組みの立案、プロジェクトの運営に当たった。構成メンバーは校長・教頭・事務長・首席（1名）・教諭（7名）・実習教員・校務員の13名。 ・主な役割分担は「総務」「記録」「会計」「連絡・資料印刷」「広報」「植生マップ」「植物名プレート」「校内への働きかけ」とした。 ・「植生マップ」8,000部については在校生・教職員に加え、PTA・後援会・地元公民館・自治会等に配付した。 ・「植物名プレート」175個は年度内に設置した。 ・「エリア案内板」3個については、4月に裏山・グラウンド西側緑地・ビオトープ池の3カ所に設置した。 ・ハサミ・鋸・鎌、羽釜・釜戸・鍋については下記のワークショップ等で昨年度以上に活用した。 <p>【ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月6日（土）公民館との共催で「竹のワークショップ」を実施。タケノコ堀り、竹箸・竹コップづくり、筍の味噌汁。 ・8月21日（月）公民館との共催で「そうめん流し体験」を実施。12名の生徒が参加し、マダケを切り出して装置を作製するとともに、竹箸・竹椀も作った。公民館との共催事業では、参加した生徒は指導員の方々や市民の方々と様々な点でコミュニケーションを持つことができた。 ・11月3日（金・祝）公民館との共催で「ドングリの種類集めとドングリ団子づくり」を実施。 ・11月10日（金）本校独自で「ドングリ団子づくり」を実施。17名の生徒が参加。 ・11月18日（土）高大連携事業として、兵庫県立大学の石田教授による里山林について講演会と裏山観察会を実施。6名の生徒の他、保護者や地域住民等、総勢25名が参加。 ・11月19日（日）高大連携事業として、6名の生徒が、神戸女学院大学の教授及び同研究室の大学生の指導の下、ハチやその他昆虫の調査を行った。あらかじめ里山に仕掛けておいた竹製のトラップを回収し、生物実験室でトラップを解体し、中にある昆虫類を調べ、教授から解説を受けた。 ・11月26日（日）、公民館との共催で「芋煮会」を実施。校内の枯れ枝処理の熱を活用して調理した。また、午後からは紅葉した裏山を散策するとともに渋柿を収穫し、干し柿づくりを体験した。 ・12月13日（木）、購入したハサミ・鋸・鎌を活用し、例年通り「裏山一斉清掃」を実施。各クラスの環境委員を中心に、PTAの生活委員や教員とともに笹刈り・枯れ枝の伐採・側溝の清掃などを実施。 ・12月26日（火）、生徒とPTA・地域住民も参加し、裏山で採取した枝や葉を使って門松と注連縄を作成。 ・1月30日（火）3年生、2月6日（火）2年生、2月7日（水）1年生を対象に里山の活用に関するアンケートを実施。 ・3月30日（金）、兵庫県立大学の教授による「コケとキノコの観察会」を実施。 <p>【授業での活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物科において「生態と環境」をテーマに里山でフィールドワークを実施。 ・家庭科において裏山で採取した植物を材料に調理をしたり、食用にできる植物とできない植物の判別などを実施。

<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>① 3年生卒業前アンケートにおける「自分の希望進路が見えてきた」「進路実現のための自分の課題が見えた」「社会に出ることの意味について考えることができた」「自分自身の適性や特徴について考えることができた」の合計（H27年度70%）を75%に引き上げる。 ② 授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができたと感じている」（H27年度77%）を80%に引き上げる。 ③ 学校教育自己診断（生徒）における「学校で将来の進路や生き方について考える機会がある」（H27年度82%）を85%に引き上げる。 ④ 裏山に関する生徒アンケートにおける「裏山を有効に活用できた」を70%とする。</p>
<p>自己評価</p>	<p>①の結果は67%で昨年と同じであった。3年生卒業前アンケートの本項目に対する数値は、進路指導の様々な取組みが反映しているが、本プロジェクトが果たした効果はまだ大きくなっていないと分析している。（△） ②の結果は74%で昨年より1%下降した。この結果について、現段階において、本プロジェクトを授業に直接結び付けるレベルにはまだ達していないと分析している。（△） ③の結果は87%で昨年より5%上昇した。本プロジェクトの取組みを通して、地域住民や大学関係者など、いわゆる「斜めの関係」の大人との触れ合いによる効果が影響しているものと分析している。（◎） ④の結果は72%で昨年より8%上昇した。この結果については、今年度は本プロジェクトが2年目を迎え、生徒の認知度が高まったのとともに、様々なワークショップに参加した生徒や、授業で裏山の植生等を直接体験した生徒が増えてきたことを反映しているものと分析している。（◎）</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>上記の自己評価において、キャリア教育面での目標には到達しなかったが、地域連携・高大連携や授業を通して、生徒は裏山とその資源を基に様々な体験をし、本プロジェクトによる恩恵を受けることができた。 今年度は、ハード面（スロープ、校内植生マップ、樹木札、案内板、解説板など）が全て完成し、ソフト面での充実を図ることもできた。 次年度の取組みにおける喫緊の課題は、より多くの生徒の参画である。そのため、クラス・クラブ・生徒会・環境委員会などの単位ごとに具体的な実施プランを示し、実際に里山で行動を起こさせていく。内容は、地域や大学の関係者と観察・調査を通してのコミュニケーションを図ったり、各教科において里山をどのように活用するかを検討し、できる限り授業で取り上げたり、課外活動として、里山で取れた産物や燃料を使ってアクティビティ（調理・草木染・リース作成など）を実施していく。また、その際、生徒会等を通じて広報していく。</p>